

第3回高松広域都市圏都市交通マスタープランフォローアップ委員会資料

高松市都市計画マスタープランについて

平成30年2月6日(火)

高松市都市整備局都市計画課

1 改定の背景等

● 改定の背景

計画策定(H20.12)以降、上位計画である「高松広域都市計画区域マスタープラン」の改定(24年10月)や「第6次高松市総合計画」の策定(28年3月)、また、都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」や地域公共交通活性化再生法に基づく「地域公共交通網形成計画」の制度化等により、公共交通を基軸とした集約型都市(コンパクト・プラス・ネットワーク)の構築に向けた取り組みがより一層求められている。

さらに、東日本大震災(23年3月発災)や熊本地震(28年4月発災)等を教訓とした安全・安心に対する関心の高まりへの対応も必要となっている。

以上のような局面に対応しつつ、本市の目指す魅力的な都市づくりを住民の理解と協働のもとでさらに展開すべく、この度「高松市都市計画マスタープラン」を改定(H29.8)した。

● 目指す将来都市像

「多核連携・集約型環境配慮都市」

～多核連携型コンパクト・エコシティ～

集約拠点への都市機能の集積と市街地の拡大抑制によるコンパクトな都市構造及び人と環境にやさしい公共交通を基軸とした環境配慮型交通システムを併せ持つ持続可能な環境共生都市「多核連携・集約型環境配慮都市(多核連携型コンパクト・エコシティ)」を目指します。

2 改定概要

● 計画改定の骨子

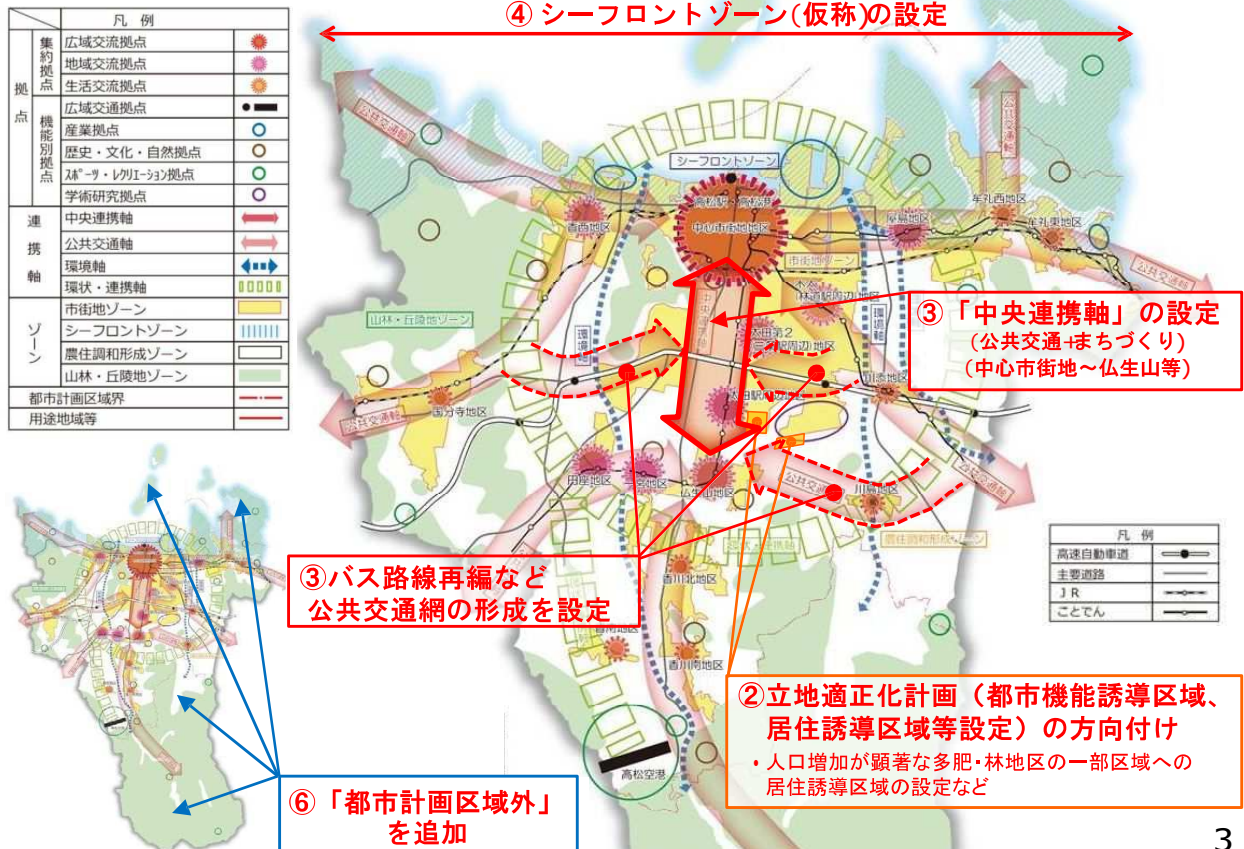
○: 反映部分 △: 該当地域に反映

見直しの骨子	全体構想			地域別構想
	うち 将来都市 構造図	うち 都市づくり の方針		
① 上位計画・分野別計画との整合確保、データ更新 (区域マス、総合計画、人口ビジョンなど)	○	○	○	△
② 立地適正化計画の指針としての役割 (都市機能誘導区域、居住誘導区域等設定の方向付け)	○	○	○	△
③ 公共交通を基軸とした都市構造の明確化 (連携軸に「中央連携軸」(公共交通+まちづくり)を追加など)	○	○	○	△
④ 社会環境の変化に対応したまちづくり方針 (臨海部にシーフロントゾーンを追加、IC周辺での流通業務施設等)	○	○	○	△
⑤ 東日本大震災等を教訓にした都市防災強化 (南海トラフ地震等の視点を追加)	○	—	○	△
⑥ 総合計画の土地利用方針としての役割強化 (都市計画区域外の役割を全体構想に追加)	○	○	—	—

2

● 将来都市構造図

番号: 改定骨子の番号



3